

科目名(英文名)	ナンバリング	単位数	年次	期間	担当者
知的財産事業化演習 (Commercialization & Marketing Practice in Intellectual Property)	MPCD19/ MPCD13	2	1年次	集中	小林 昭寛(コバヤシ アキヒロ) 箱田 聖二(ハコダ セイジ) 大塚 理彦(オオツカ ミチヒコ) 村川 一雄(ムラカワ カズオ) 杉浦 淳(スギウラ ジュン) 山田 繁和(ヤマダ シゲカズ) 角田 全功(カクタ マサノリ)

授業のねらい概要	<p>PBL方式(Project-Based Learning / Problem-Based Learning)の授業により、知的財産のビジネス活用に関するスキルを身につけることをねらいとする。</p> <p>具体的には、下記①又は②の方式のプロジェクトいずれかをグループワークで実施する。</p> <p>①特定の開放特許技術を活用しうる社会的ニーズを探索し、当該特許技術の用途に基づいたビジネスアイデアの事業計画を企画立案するプロジェクト(技術起点型プロジェクト/ニーズドリブンプロジェクト)</p> <p>②潜在的あるいは顕在化した社会ニーズに基づき企画立案したビジネスアイデアを実現するために必要な既存の技術の特許関連DB等から探索するとともに、その技術を活用した事業計画を企画立案するプロジェクト(事業起点型プロジェクト/ニーズドリブンプロジェクト)</p> <p>なお、この授業科目の一環として、近畿経済産業局が主催する「開放特許等を活用した学生ビジネスアイデアコンテスト」に出場し、コンテストにおいて各グループが授業の成果のプロジェクトについて発表することを予定している。コンテストのエントリーが5月でコンテスト本選が翌1月の予定のため、本科目の開講時期は4月から翌年1月と、前期7回・後期8回の不定期授業を行う集中講義形式とする。</p>
----------	---

回数	テーマ	授業の内容・教育方法	予習/復習
第1回	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。経営学の基礎的な知識を学ぶ。	次回に向けて配布資料の内容をよく理解しておくこと(4時間)
第2回	オリエンテーション	経営学の基礎的な知識を学ぶ。未利用特許の概要を把握する。暫定的なグループ分けをする。	配布資料の内容を復習するとともにプロジェクトの方式に関する検討をしておくこと(4時間)
第3回	コンテスト説明会	近畿経済産業局が主催する「開放特許等を活用した学生ビジネスアイデアコンテスト」の説明会に出席する。(他の授業と重複する場合は、説明会の収録動画を視聴する。)	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第4回	グループワーク(1)	グループ討議を開始する。各グループでプロジェクトの方式(①/②)を決定する。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第5回	グループワーク(2)	①の場合は対象の未利用特許を選定するためにグループ討議をする。②の場合はビジネスアイデアを案出するためにグループ討議をする。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第6回	グループワーク(3)	①の場合は対象の未利用特許を選定するためにグループ討議をする。②の場合は案出したビジネスアイデアに必要な技術等を探索するためにグループワークをする。	グループ討議の準備をすること。中間発表の準備をすること。(4時間)
第7回	グループワーク(4)	①の場合は対象の未利用特許を選定するためにグループ討議をする。②の場合は案出したビジネスアイデアに必要な技術等を探索するためにグループワークをする。	中間発表時に指摘された問題点について検討すること(4時間)
第8回	グループワーク(5)	①の場合は対象の未利用特許を選定するためにグループ討議をする。②の場合は案出したビジネスアイデアに必要な技術等を探索するためにグループワークをする。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第9回	中間発表	各グループの進捗状況の確認のための中間発表をする。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第10回	グループワーク(6)	①の場合は選定した未利用特許に基づくビジネスアイデアを具体的に事業化するため詳細についてグループ討議をする。②の場合は案出したビジネスアイデアに必要な技術等を探索するためにグループワークをする。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第11回	グループワーク(7)	①の場合は選定した未利用特許に基づくビジネスアイデアを具体的に事業化するため詳細についてグループ討議をする。②の場合は探索した技術等を利用した事業計画を具体化するためにグループで討議する。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第12回	グループワーク(8)	①の場合は選定した未利用特許に基づくビジネスアイデアを具体的に事業化するため詳細についてグループ討議をする。②の場合は探索した技術等を利用した事業計画を具体化するためにグループで討議する。	グループ討議の準備をすること。グループ討議で見出した課題について検討すること。(4時間)
第13回	グループワーク(9)	最終発表のためのプレゼン資料の作成をする。	プレゼン資料の改善をすること(4時間)
第14回	グループワーク(10)	最終発表のためのプレゼンの模擬演習をする。	プレゼン資料の改善をすること(4時間)
第15回	最終発表	成績評価の対象となる最終発表をグループごとに行う。(コンテストが開催される場合はコンテストの本選で発表する)	プレゼンの準備をすること(4時間)。

到達目標	グループとして何らかの事業計画を企画立案することができるようになることを最低限の到達目標とする。										
評価方法	中間発表と最終発表の内容及びグループワークでの発言・態度等に基づき総合評価する。										
成績評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>●上記最低限の到達目標を達成できていない場合は、本単位を取得できない(欠格事由)。</li> <li>●最低限の到達目標を達成している場合は、以下の項目を総合的に評価して点数をつける。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①事業計画の具体性や完成度(ブレンストレーミングの経過、アンケートやヒアリングなどのニーズ調査)、</li> <li>②事業計画の実現可能性(コスト分析、追加開発の要否、事業の収益性等)、</li> <li>③計画の潜在的な成功可能性(ニーズの強弱、市場規模、競合との比較、事業の採算性等)、</li> <li>④事業実現に向けた意欲、</li> <li>⑤プレゼンテーション時の説明力</li> </ul> </li> <li>●上記の評価点に応じて下記の成績評価とする。             <table border="0"> <tr> <td>総合点90～100</td> <td>●評価「A」</td> </tr> <tr> <td>総合点80～89</td> <td>●評価「B」</td> </tr> <tr> <td>総合点70～79</td> <td>●評価「C」</td> </tr> <tr> <td>総合点60～69</td> <td>●評価「D」</td> </tr> <tr> <td>総合点0～59</td> <td>●評価「F」</td> </tr> </table> </li> </ul>	総合点90～100	●評価「A」	総合点80～89	●評価「B」	総合点70～79	●評価「C」	総合点60～69	●評価「D」	総合点0～59	●評価「F」
総合点90～100	●評価「A」										
総合点80～89	●評価「B」										
総合点70～79	●評価「C」										
総合点60～69	●評価「D」										
総合点0～59	●評価「F」										

教科書			参考書		
書名	著者名	出版社名	書名	著者名	出版社名
必要な資料はその都度配布する。					

受講心得	2018年度から開始した科目であり、他の大学院でも実施した例がない日本で初の試みであるため、挑戦心を持って参加すること。グループワークが中心になるため、チームワークを心がけること。期間内にプロジェクトを完結させるためには、講義時間以外の時間でかなりの調査や関連の活動が必要である点に留意すること。授業中に情報の検索や説明資料の作成をすることがあるので、各自がPCを持参すること。
オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"><li>●小林: 講義や会議等を除き、原則として月曜日から金曜日の13:00～18:00の時間帯に研究室で対応する。</li><li>●角田: 水曜日の5時限に研究室で対応する。</li><li>●大塚: 木曜日の3時限に研究室で対応する。</li><li>●箱田: 木曜日の3時限に研究室で対応する。</li><li>●山田: 金曜日の5時限に研究室で対応する。</li><li>●杉浦: 金曜日の5時限に研究室で対応する。</li><li>●村川: 水曜日の5時限に研究室で対応する。</li></ul>